



日動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043 (222) 7207 番

Q2.10.12 No. 3672

強制配転者の原職奪還へ！ 組織破壊攻撃を粉碎しよう！

万全の斗争体制を構築しよう

「JR体制」によるこの間の施策は、全て動労千葉の影響力の排除・弱体化を狙ったものであり現在も続いている。総武緩行線の東京への業務移管しかり、予科生の運転士登用差別II組合脱退攻撃しかり、支社指令等への一本釣りしかり、京葉運輸区・習志野運 域化工作しかり、この一本の線は、業運転区への破壊攻撃へと結びつくものだ。一連の攻撃の先鞭をなした強制配転者の原職奪還の闘いは、単に「塩づけ」を

直営店舗(五店舗)の十一月一日廃止提案によって、原職復帰への道筋を拓く闘いは、最大級の決戦となっている。結論は、全組合員がJR当局との最大の組織決戦として、ストライキも辞さず闘い抜くことにある。

強制配転者の原職奪還は、いまさら言うまでもないが、国鉄「分割・民営化」の本質を示す闘いである。

動労千葉の役員・活動家の排除は、組織破壊攻撃そのものであり、国鉄労働運動解体の一方の環である。



10月7日 労働省に

スト事前通知

打開するということにとどまらず、「JR体制」そのものに痛烈な打撃を与え、崩壊をさらに促進させるものに他ならない。そして組織破壊攻撃を抑制し、労務政策そのものの根幹を揺さぶるものなのだ。

一方、JRは関連事業の育成により、今後鉄道事業と対等なものとしていくことを打ち出し、現在ある直営店舗など「非効率店舗」は基本的に廃止していく動向にある。

であるがゆえに、今次廃止提案に対する闘いは、全ての強制配転者の原職奪還へと結びつくものだ。

われわれは、この闘いを組織の総力をあげ、要員問題と直結する三六協定の闘いー京葉運輸区・習志野運輸区における域域化工作II配転問題と結合し、全支部・全組合員がストライキも辞さず闘い抜くことを通し獲得しなければならぬ。万全のスト体制を構築しよう！

自衛隊 出兵阻止 10月連続闘争へ



13 (火) 21 (水)

小牧現地闘争
動力車会館
20時集合

国際反戦デー
日比谷野音
18時から

自衛隊のアジア派兵許すな